



## 2023年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社アゴラ ホスピタリティグループ  
コード番号 9704 URL <http://www.agorahospitalities.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) クォック・ゲイリー・ヤン・クエン

問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部部长 (氏名) 石井伸幸

TEL 03-3436-1860

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第3四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	5,194	55.1	228		319		232	
2022年12月期第3四半期	3,348	48.8	1,240		891		1,077	

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 207百万円 ( %) 2022年12月期第3四半期 1,044百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	0.92	
2022年12月期第3四半期	4.24	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	18,145	5,300	18.6
2022年12月期	17,035	5,145	20.7

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 3,370百万円 2022年12月期 3,534百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00		0.00	0.00
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000	41.4	50		50		100		0.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期3Q	281,708,934 株	2022年12月期	281,708,934 株
期末自己株式数	2023年12月期3Q	27,764,569 株	2022年12月期	27,764,544 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期3Q	253,944,365 株	2022年12月期3Q	253,944,390 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における売上高は、訪日外国人観光客の増加により前年同四半期を上回る5,194百万円（前年同四半期比55.1%増）となりました。宿泊事業における売上高は4,515百万円（前年同四半期比68.2%増）となりました。霊園事業及び住宅等不動産開発事業等を行っているその他投資事業の売上高は678百万円（前年同四半期比2.2%増）となりました。

営業費用については、継続的なコスト削減に努めておりますがエネルギーコストの増加、人件費の増加の影響もあり営業損失は228百万円（前年同四半期は営業損失1,240百万円）となりました。次に、営業外収益として為替差益55百万円を計上しました。なお、前年同四半期には新型コロナウイルス感染症拡大防止等の支援金である受取協力金を223百万円計上しておりましたが、当四半期において同支援金は計上しておりません。そして、支払利息67百万円のほか、ホテル不動産保有会社の借入金のリファイナンスにより資金調達費用61百万円を計上したことなどにより営業外費用174百万円を計上しました。それらの結果、経常損失は319百万円（前年同四半期は経常損失891百万円）となりました。また、特別利益として今井荘の売却に伴う固定資産売却益128百万円を計上したほか、非支配株主に帰属する四半期純損失43百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は232百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,077百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

#### ① 宿泊事業

当第3四半期連結累計期間における宿泊事業部門におきましては、すべての宿泊施設が期間を通じて営業を行っております。円安が進み訪日外国人観光客が増加したことにより、主要なホテル アゴーラ リージェンシー 大阪堺においては売上高1,737百万円（前年同四半期比40.4%増）、ホテル アゴーラ 大阪守口においては売上高1,029百万円（前年同四半期比66.7%増）となり、宿泊事業部門全体では売上高4,515百万円（前年同四半期比68.2%増）となりました。しかし、各宿泊施設の宿泊部門での売上高が回復している一方、レストラン、宴会部門での人員不足の影響が大きく、施設内で適正な人員配置を継続して行っておりますが営業時間の縮小や、一部店舗を休業し、メインレストランで提供を行うなどの対応を行っております。また、円安や物価高のほか、賞与支払いなどにより人件費が増加し、営業損失は74百万円（前年同四半期は営業損失1,069百万円）となりました。

#### ② その他投資事業

マレーシアにおける霊園事業の売上高は堅調に増加し661百万円（前年同四半期比3.3%増）となりましたが、営業利益は89百万円（前年同四半期比36.4%減）となりました。これは、当第3四半期連結累計期間において、新規受注及び引き続き既契約案件の引渡しも堅調に進捗したものの、工事にともなうエネルギーコストが増加したことによります。証券事業は営業損失11百万円（前年同四半期は営業損失88百万円）となりました。それらの結果、その他投資事業部門における売上高は678百万円（前年同四半期比2.2%増）となり、前年同四半期を上回る営業利益88百万円（前年同四半期比24.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて6.5%増加し、18,145百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて14.2%増加し、5,025百万円となりました。これは、現金及び預金が559百万円、開業事業等支出金が118百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて4.0%増加し、13,075百万円となりました。これは、建設仮勘定が1,245百万円増加し、土地が474百万円、のれんが109百万円減少したことなどによります

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて23.1%減少し、44百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて8.0%増加し、12,845百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて44.0%減少し、4,708百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が4,144百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて133.5%増加し、8,137百万円となりました。これは、長期借入金が4,749百万円増加したことなどによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し、5,300百万円となりました。これは、利益剰余金が232百万円減少し、非支配株主持分が317百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、2023年2月13日に公表いたしました2023年12月期の業績予想に対し、概ね想定通りに推移しており、現時点で業績予想の修正はありません。

なお、今後の見通しにつきましては引き続き検討を行い、業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,118,867	2,678,542
売掛金	395,509	431,072
有価証券	333,745	315,692
貯蔵品	76,213	53,121
開発事業等支出金	1,205,760	1,323,891
その他	289,369	231,969
貸倒引当金	△19,087	△8,770
流動資産合計	4,400,377	5,025,518
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,679,753	3,456,746
車両運搬具(純額)	8,477	7,279
工具、器具及び備品(純額)	84,762	81,712
土地	5,985,194	5,510,992
建設仮勘定	949,700	2,195,516
有形固定資産合計	10,707,889	11,252,247
無形固定資産		
商標権	0	0
ソフトウェア	10,719	12,972
のれん	977,305	867,912
無形固定資産合計	988,024	880,884
投資その他の資産		
投資有価証券	213,862	238,487
長期貸付金	480,034	515,047
その他	186,736	188,610
投資その他の資産合計	880,634	942,145
固定資産合計	12,576,548	13,075,278
繰延資産	58,199	44,768
資産合計	17,035,125	18,145,565

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	214,751	200,015
短期借入金	54,312	61,200
1年内返済予定の長期借入金	4,231,571	87,270
未払金	3,077,343	3,358,309
未払費用	44,782	31,043
未払法人税等	92,025	87,926
賞与引当金	—	42,362
その他	689,676	839,871
流動負債合計	8,404,462	4,708,000
固定負債		
長期借入金	2,799,839	7,549,199
長期預り保証金	288,443	208,244
資産除去債務	46,000	46,000
繰延税金負債	—	8,034
その他	350,722	326,083
固定負債合計	3,485,005	8,137,562
負債合計	11,889,468	12,845,562
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,534,406	8,534,406
資本剰余金	2,646,000	2,646,000
利益剰余金	△6,678,247	△6,911,103
自己株式	△1,033,538	△1,033,538
株主資本合計	3,468,621	3,235,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	18,205
為替換算調整勘定	65,421	116,831
その他の包括利益累計額合計	65,429	135,036
新株予約権	97,364	97,364
非支配株主持分	1,514,242	1,831,836
純資産合計	5,145,657	5,300,003
負債純資産合計	17,035,125	18,145,565

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	3,348,083	5,194,484
売上原価	3,264,062	3,902,238
売上総利益	84,020	1,292,245
販売費及び一般管理費	1,324,851	1,521,125
営業損失(△)	△1,240,830	△228,879
営業外収益		
受取利息	3,789	10,829
受取配当金	2	2
受取家賃	—	5,268
為替差益	123,863	55,035
プリペイドカード失効益	1,593	786
受取協力金	223,917	—
持分法による投資利益	108,434	—
その他	9,137	11,757
営業外収益合計	470,738	83,681
営業外費用		
支払利息	67,772	67,815
資金調達費用	21,424	61,999
持分法による投資損失	—	13,014
開業費償却	28,506	13,430
その他	4,192	18,341
営業外費用合計	121,894	174,601
経常損失(△)	△891,986	△319,799
特別利益		
固定資産売却益	—	128,941
特別利益合計	—	128,941
特別損失		
事業撤退損	106,768	—
特別損失合計	106,768	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△998,755	△190,857
法人税、住民税及び事業税	122,486	95,342
法人税等調整額	6,252	△9,456
法人税等合計	128,739	85,886
四半期純損失(△)	△1,127,494	△276,744
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△49,737	△43,888
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,077,756	△232,855



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,127,494	△276,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	18,197
為替換算調整勘定	83,270	51,410
その他の包括利益合計	83,270	69,607
四半期包括利益	△1,044,223	△207,136
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△994,486	△163,248
非支配株主に係る四半期包括利益	△49,737	△43,888

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症は当社グループの主力事業である宿泊事業に大きな影響を与えておりますが、部門によっては訪日外客数の増加に伴い、部門によっては回復の兆しをみせております。

新型コロナウイルス感染症が当社グループの業績に与える影響については、前連結会計年度の有価証券報告書（追加情報）に記載した仮定に関し、重要な変更はありません。

上述のように事業収益の回復途上にあるものの、感染状況に変化が生じた場合には、第4四半期連結会計期間以降の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	宿泊事業	その他投資事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,684,299	663,783	3,348,083	—	3,348,083
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,684,299	663,783	3,348,083	—	3,348,083
セグメント利益又は損失 (△)	△1,069,902	70,876	△999,025	△241,805	△1,240,830

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△241,805千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	宿泊事業	その他投資事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,515,783	678,701	5,194,484	—	5,194,484
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,515,783	678,701	5,194,484	—	5,194,484
セグメント利益又は損失 (△)	△74,061	88,537	14,476	△243,355	△228,879

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△243,355千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、世界的な新型コロナウイルスの影響により、訪日観光客数が減少したことを主要因として、営業損失228百万円、経常損失319百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失232百万円を計上しました。また、世界的な新型コロナウイルス感染症の終息及び宿泊需要の回復には一定の期間を要するものと考えられることから、当社グループの資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は、当該状況を解消すべく、2020年7月に当社グループが保有する賃貸不動産、2023年3月に当社が保有する固定資産を売却したほか、2023年9月には銀座・浅草のホテルの取得に関わる借入金約41億円の借換えを実施するなど金融機関との良好な関係を維持しております。また、運転資金の確保という面においては、徹底した固定費の削減ならびに金融機関からの運転資金の調達をしております。

以上より、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載しておりません。